

令和7年度 第1回大阪市地方独立行政法人天王寺動物園評価委員会 議事要旨

■開催日時：令和7年7月7日（月）9：30～11：45

■開催場所：天王寺動物園 レクチャールーム

■出席者：

（委員）	有田 真紀	有田真紀公認会計士税理士事務所	公認会計士・税理士
	高坂 佳詩子	弁護士法人色川法律事務所	弁護士
	佐渡友 陽一	帝京科学大学生命環境学部	准教授
	高瀬 孝司	オフィスT 代表	（委員長）
	原 久美子	公益社団法人日本動物園水族館協会	専務理事
	水上 啓吾	大阪公立大学大学院都市経営研究科	教授

（大阪市）	佐々木 康晴	建設局公園企画運営担当部長
	秋山 岳彦	建設局公園緑化部事業所企画調整担当課長
	吉田 祥子	建設局公園緑化部調整課動物園支援担当課長代理
	比嘉 航	建設局公園緑化部調整課担当係長

外1名

（法人） 計6名

【議事要旨】

1 開会

2 地方独立行政法人天王寺動物園の令和6年度業務実績評価について

資料1について法人より説明

<意見>

- ・ 動物園というのは、常にどこかがリニューアルしているぐらいの状態がある意味正常である。各施設が30～50年使える前提で、園内を継続的にリニューアルするという状況を考えると、「どのくらいのスパンでリニューアルしていくのが正しいのか」を考えなければならない。（佐渡友委員）
- ・ そして「次はこういうリニューアルが必要だから、それに向けた財源をどう確保していくのか」と「寄附を集めてファンドレイジングしていく」という話はリンクしてくるはずなので、これからの長期的な課題として検討いただかなければいけない。（佐渡友委員）
- ・ 万博開幕以降、大阪市内の類似施設においても入場者数が10～15%程度減っていると聞く。この手のものは、万博と連動してプラスに持っていくというところは多少難しい面もある気がする。近年夏が非常に暑く長いので、猛暑対策はされていると思うが、令和7年度においてはある程度の入園者数の減少もやむを得ないところもあるのでは。（高瀬委員長）

- ・ リニューアル整備にかかる財源確保はとても大事。近年、どの企業においても工事代は非常に値上がりしており、万博が終わっても下がらないという話である。人件費や資材の高騰もあるので、これはもう諦めて財源確保は大阪市にしっかりしてもらわないとしかたがないと思う。（有田委員）
- ・ 教育活動の課題として、海外からの来園者からの飼育員によるガイドに関するアンケート収集とあるが、天王寺動物園は海外の来園者もかなり多いイメージがある。PRやよりよい動物園にしていくための意見や魅力、感想等を反映できるように外国語対応の工夫をしていく必要がある。（高坂委員）
- ・ ガイドにおける外国語対応については、ガイドのターゲットを誰にするのが大事。海外ではボランティアがガイドの対応をしている事例がある。そのため、誰が誰に対して話をするのかという視点で、使用する言語の選択を考えていくことが大切だと考える。（佐渡友委員）

資料２・３をもとに市評価について事務局より説明

<意見>

- ・ 各小項目に対する評価について、市評価案のとおりで妥当である。（全員）
- ・ 小項目１について、他園から動物を預かることは技術力に自信がなければできないことである。また、グラントシマウマの導入後の飼育頭数が分かりづらいので、ヒアリング結果に追記いただきたい。（原委員）
- ・ 小項目２について、ニホンイヌワシに関する取組は、移動後その個体がきちんと生育しており、大きな成果である。有精卵の移動は期間が限られるので、認定希少種保全動植物園の認定による効果が大きかったと考えられる。（原委員）
- ・ 小項目４について、新しい取組やチャレンジをしており非常に頼もしい。動物園は些細なニュースでも多くの方から関心を持ってもらえる。テレビ等の取材にも積極的に答えようという姿勢が見受けられ、イベント等の取組をさらに持続的に行うことで、いかに天王寺動物園に魅力があるかということを今後も発信していただきたい。（高瀬委員長）
- ・ 小項目１７について、環境エンリッチメントに関するワークショップを開催し、他園館の職員とともに取組を向上させた点が素晴らしい。（佐渡友委員）
- ・ 小項目２５について、ベストプレゼン賞を受賞した動物逸走事案の発表は、参加者の心に非常に残ったと考えられるので高く評価したい。（原委員）
- ・ 小項目１９について、今回の遅延理由は法人だけの責任によるものでもないため、評価を受けて何を改善すべきかが少しわかりづらい。評価点が独り歩きするとよくないので、今後は改善すべき点に繋がるような評価項目になるよう心がけていく必要がある。（水上委員）
- ・ 小項目３３について、入園者数と入園料収入のバランス関係をもう少し整理したうえで目標を設定していくと今後の持続可能な園の運営の姿が見えてくるのではないかと。例えば、多くの人に動物園に来てもらうことは、周辺一帯の経済活動の潤いや地価の上昇に繋がり、間接的に大阪市の負担軽減に繋がっているのでは。（水上委員）
- ・ 無料入園者だとしても園内で何か買ったり食べたりすると考えられる。グッズ収入等の副次的な収入を考えると、入園者数を重視するという考えに共感する。（高坂委員）

- ・ 小項目 34～36 について、クラウドファンディングを実施することが目的ではなく、クラウドファンディングに参加してくれた人を今後どう繋いでいくかが大切である。寄附や法人営業等も非常に頑張ってくださっており、これは独法化したことの成果だと考える。今後は専門家のアドバイスを受けられるような体制を整えていくということも考えていただきたい。（佐渡友委員）

3 第 2 期地方独立行政法人天王寺動物園中期目標（案）について

資料 4 について事務局より説明

<意見>

- ・ 第 2 期中期目標について、案のとおり定めることは妥当である。（全員）
- ・ 入園料の単価を絶対に上げないと経営が立ち行かなくなると考えられるので、料金設定の検討だけでなくアクションに入っていただきたい。実際に値上げをするとなると時間がかかると思うので、そういう意味でスピードアップをお願いしたい。（有田委員）
- ・ 中期目標の前半は明るい話がある一方で、後半の細かい話になると苦しい経営状況の話もあり、なかなか展望を明るく描くことも難しい状況も垣間見える。中期計画を策定する際も、こういった厳しい目線を残しつつも、今後 5 年間、法人職員の方が頑張れるようなものを作っていないとなかなか良くならないのでは。（水上委員）
- ・ 中期目標は良いが、これをいかに計画にリンクしていくかということが非常に大事である。中期計画の全項目において 5 年間の到達度を表せられない面もあると思うが、これから 3 年間くらいでここまで行こう、4 年後にはここまでやろうという計画を立てた方がいい項目もある。ある程度のスパンを見て、達成予定が 3 年後だったものが仮に 4 年後になったとしてもそれは計画どおり進めたということも評価できるような、一定期間の中での到達度を評価した方がいい項目もあるので、中期計画を策定する法人はもちろん、それを認可する市側もそういった点を工夫してもらってもいいのでは。（高瀬委員長）

4 閉会